



# 南の躍動

令和8年度 第1号

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和8年6月29日



## AI時代と教師の役割

所長 別枝 昌仁

昨年参観した複式学級での算数授業。一方の学年の児童が、やや高度な課題解決に向けて級友同士で熱心に話し合っています。先生は、別の学年の指導に一区切り入れると、黒板を前に意見を出し合う児童の様子を観察します。そして、状況を把握するとしばらく考え、答えではなくヒントを与えます。その後、話し合いは更に活発なものになっていきました。学習者の主体性が引き出され、学習者と学習者、学習者と教材、学習者と指導者の対話を通して学びが深まっていくのを感じました。

こうした主体的な学びを支える授業の在り方は、生成AI（以下、AIと表記）の活用が進む現在、改めて重要になっています。既にAIは「もっと丁寧に説明して」「もう一回」「説明方法を変えて」などの要望に際限なく応じます。情報の正確さの確保や情報モラルの指導などの課題はありますが、知識の伝達や、誤字脱字・語法の誤りの添削をはじめ、AIに代替できることが増えていく中で、例えば説明する力で教員の資質・能力を測る意味が薄れるなど、教員の役割は変化していくことが想定されます。

大学入試を突破するほど進化し、できることを増やし続けるAI。ただ、人間は身体をもち、感覚と結び付いた感情や知性を基に思考したり行動したりする能力があります。冒頭の授業のように、児童生徒の学ぶ姿から必要な情報を見取ったり聞き取ったり感じ取ったりすること、その結果に応じて、反応を待ったり適切なヒントを与えたりするなどの働き掛けを行うことにかけては、当面は人間側に分がありそうです。

こうした状況の中での授業づくりでは、まずはAIの活用場面を見定めた上で、児童生徒が課題解決に夢中で取り組める活動を設計する。授業中は児童生徒が自分たちで法則や要点に気付けるよう見守り、支援する。そのことで、教員が説明する内容は自ずと要点を押さえ、児童生徒の発言が生かされたものになるはずです。AIは、教科等ならではの学びを追究する中で活用されてこそ、深い学びの実現を後押しする力を得るものと思います。

教育に携わる他の職においても、効果的なAIの活用や、人間であるからこそその強みを生かした業務の遂行に当たることが求められます。新しい時代の教育の創り手として、人間にしかできない役割とは何かを問い続けながら、それぞれの立場で専門性を磨き続けていきたいものです。

## 令和8年度大島地区教育推進プラン

令和8年度の目標を「奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進～人権教育を全ての教育の根幹に～」として、「到達数値目標」を設定しました。

本地区では、「豊かな心と健やかな体」「『確かな学力』の定着」「開かれた信頼される学校づくり」を三つの柱として、自然豊かな大島の特徴を生かした教育活動に取り組んでいます。

特に、「『確かな学力』の定着」では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指して、昨年度に引き続き「一人1研究授業の確実な実践」を目標にしています。さらに、児童生徒の学びの姿に着目した授業研究会を推進し、授業改善に向けた取組を充実させています。

加えて、人権に関する評価項目では、昨年度の教育推進プランの結果を基に、自己肯定感に関する内容に変更しています。また、体力・運動能力の向上では、主体的に運動に取り組む児童生徒の育成に向けた評価項目に変更しています。学校では、到達数値目標を達成することだけに意識を向けるのではなく、児童生徒のよさや可能性を広げることに意識してほしいと思います。



### ○ 体力・運動能力の向上

|    | 運動が好き |       | 体育・保健体育が楽しい |       |
|----|-------|-------|-------------|-------|
|    | 小学生   | 中学生   | 小学生         | 中学生   |
| 男子 | 100%  | 100%  | 100%        | 100%  |
| 女子 | 95%以上 | 90%以上 | 95%以上       | 95%以上 |

【令和8年度 大島地区教育推進プラン】

## 学力調査結果を生かした授業改善

学力調査結果を活用し、どのような授業改善が行われているのでしょうか。

全国及び鹿児島学力・学習状況調査の結果から、「主体的な学びの実感」、「学習の自己調整」、「ICT活用の実感」に課題が見られました。そこで、次の視点から授業改善を進めていただきたいと思います。

### 1 主体的に学び、学びの価値を実感できる授業づくり

- (1) 既習事項や実生活、社会との関連を意識した課題設定を行う。
- (2) 対話的な学習活動を通して、多様な考えに触れながら学びを深める。
- (3) 振り返りを充実させ、学びの成果や成長を実感できるようにする。

### 2 学び方を工夫し、自ら学習を計画する力の育成

- (1) 学習の見通しをもち、「何をどのように学ぶか」を考える機会を設ける。
- (2) 試行錯誤しながら課題解決に取り組む学習活動を充実させる。
- (3) 「家庭学習マイゴールチャレンジ」で取り組む内容や方法を選択する場を設ける。

### 3 児童生徒が活用を実感できるICT活用の推進

- (1) 提示・説明の道具としてではなく、思考・表現・協働を支えるツールとして活用する。
- (2) 共同編集機能やデジタル教材等を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

各学校においても、課題に応じた具体策を全職員で検討し、組織的かつ計画的に推進してください。そして、実施状況や成果を定期的に検証して改善を図ることが大切です。

## 生徒指導の充実～全ての児童生徒が安心して学べる、魅力ある学校づくり～

「生徒指導提要」の改訂から3年が経過しました。本地区ではこれまで「発達支持的生徒指導」の充実や、スクールカウンセラー等を交えた「チーム学校」での組織的対応を推進してきました。しかし、不登校や長期欠席者は依然として増加傾向にあり、いじめの未然防止や早期対応についても充実が求められています。

児童生徒の命を守り、社会的な自己実現を支えるためには、何よりも学校を「安心して楽しく登校できる場所」にすることが不可欠です。そこで、児童生徒の自己肯定感を育て、課題を未然に防ぐため、次の三つの重点目標に組織的に取り組んでいきましょう。

### 1 魅力ある学校・授業づくり（発達支持的生徒指導）

【到達目標】自己肯定感：「自分にはよいところがある」85%以上

- (1) 教科の指導と生徒指導の一体化  
児童生徒が主体的に学ぶ授業を展開し、分かる・できる達成感を味わわせることで、授業の中で自己肯定感を育む。
- (2) 一人1台端末等の日常的な活用  
「児童生徒が使って学ぶ」授業をほぼ毎日実践し、児童生徒の主体的な深い学びを支える。

### 2 サインの早期把握と組織的対応（早期発見・早期対応）

【到達目標】いじめ対応：1件でも多くの認知、3か月が経過した事案の解消率100%

- (1) 年5回以上の実態把握  
一人1台端末等やアンケート等を効果的に活用し、児童生徒の心や体調の小さな変化を早期に察知して寄り添う。
- (2) 小中学校等間の丁寧な引継ぎ  
不登校傾向や問題行動等の状況や対応を、小学校から中学校（義務教育学校前期課程から後期課程）へ確実に引き継ぎ、途切れのない連続した支援を行う。

### 3 専門家や地域と連携した「チーム学校」の強化

【到達目標】不登校対策：新規不登校0、不登校在籍率の低減（前年度比）

- (1) SC・SSWの効果的な活用  
ケース会議での組織対応を徹底し、担任一人、1校だけで課題を抱え込まずに支える。また、命の大切さを考える「SOSの出し方、受け止め方に関する教育」も充実する。
- (2) 家庭・地域との連携  
家庭や地域と深く連携し、島全体で児童生徒を温かく見守る。

全ての児童生徒が、今日、そして明日も安心して学校に通い、日々の学びを積み重ねていけるよう、学校が一丸となって温かく見守り、育てていきましょう。

【タイトル横の写真】宇検村指定文化財の玉ハベラ。奄美・沖縄の女性神役ノロの装身具として伝来。